

平成 30 年度事業計画

(自 平成 30 年 2 月 1 日～至 平成 31 年 1 月 31 日)

公益社団法人 日本薬学会

I はじめに

日本薬学会はくすり・薬学という共通認識を基に設立された我が国有数の学術団体であり、医薬品の創製、製造、安全性と有効性、供給、適正使用、生体での作用機序に関する情報交換・情報発信をはじめ、広く医療機器、再生医療、予防医学や生命科学に関する学術や産業の発展に貢献してきました。平成 30 年度におきましても学会員の支援と、学会の発展のために種々の取り組みを進める所存です。

本年138 年会在、平成30年3月25日から28日まで金沢の地で開かれることとなりました。金沢大学は平成29年に薬学創立150周年を迎えた伝統ある大学で、薬学の発展に貢献されて来ました。本年度の日本薬学会年会は向智里組織委員長の下で開催され、活発な発表と討論が行われる予定です。

学会誌の発行は学会活動の中でも、最も重要なものの一つです。本学会では学術誌として英文誌の Chem. Pharm. Bull. (CPB)、Biol. Pharm. Bull. (BPB) を発行しておりますが、審査期間の短縮を図るとともに、BPB に Graphical Abstract を導入し、CPB には Current Topics を導入するなど、読者の利便性向上と学術誌の充実を図ってきました。時代のニーズに合った情報を、ニーズに合った方法で発信することを念頭に置いて、知恵を絞り、学術誌等のさらなる充実・発展を目指していきたくと考えています。さらに J-STAGE との連携で英文 2 誌のインターフェースを拡充しました。また YAKUGAKU ZASSHI に関しましては、症例報告を受け付けることとし、医療薬学分野等の英語による発刊を可能にしたため IF が回復しつつあります。さらに、生物系のオンラインジャーナル「BPB Reports」の発刊に向け、準備を進めています。学会の情報誌に関しましては、内容が充実しているファルマシアを発刊しています。薬学会会員は J-STAGE でのアクセスが可能となっております。Web など、学会員がどこでも気軽に情報を入手できるような方向に進むことを願っています。

国際化は薬学領域に限らず、多くの学会で重要な課題となっております。日本薬学会では、FIP (国際薬学連合) や AFMC (アジア医薬化学連合) との連携を積極的に行い、またドイツ、アメリカ、韓国各薬学会などとの交流、国際創薬シンポジウムの開催など、国際化を推進して行きたいと考えています。さらに、海外の方も会員になりたくなるようなメリットと仕組みを考えることにより、海外会員制度を創製し、新たな観点から国際化を進めていきたいと考えています。

さて若手研究者への支援は、我が国の薬学の発展に欠かせないものと考えています。これまで順調に機能してきた長井記念薬学研究奨励支援事業を継続していく予定です。さらに高校生以下の次世代層に薬学の魅力を伝えるために、日本学術振興会の卓越研究成果公開事業を通して、ネット上で薬学研究に関する情報を公開する準備を進めております。

日本薬学会には部会と支部があり、その活動は日本薬学会の活動基盤であります。各領域の専門性に基づく部会では、それぞれの専門性を重視し、研究に関する深い情報交換や討議ができるものと考えています。地域に基づく支部活動は、それぞれの地域の会員、特に大学生や大学院生が参加し発表しやすい環境と、インセンティブを上げる工夫を継続して行っていきたいと考えています。学会本体としても部会・支部の活動を支援していきます。

II 事業計画事項

1 平成 30 年度代議員総会の開催

平成 30 年 3 月 25 日（日）に金沢東急ホテルにおいて開催します。

なお、代議員総会は代議員をもって構成する総会ですが、本会会員であれば総会に出席して意見を述べるすることができます。

2 学術研究・教育活動の推進

1) 学術誌の発行

質の高い研究成果の投稿を促進しながら、出版までの作業を迅速、正確かつ効率的に行い、薬学ならびに関連諸科学の発展に寄与してまいります。各誌の特性、Scope を最大限に活かし、学術論文発表の場の提供と学会賞受賞記念総説の掲載など、誌面の充実を目指します。高度情報化社会の趨勢を視野に、効果的な情報発信を行ってまいります。

本年度の学術誌の発行予定は次のとおりです。

- ・ YAKUGAKU ZASSHI（第 137 巻）年 12 回
- ・ Chemical and Pharmaceutical Bulletin（第 65 巻）年 12 回
- ・ Biological and Pharmaceutical Bulletin（第 40 巻）年 12 回

2) 生物系オンラインジャーナル「BPB Reports」の発刊

生物系のオープンアクセス・オンラインジャーナル発刊に向けて、計画を推進いたします。

3) J-STAGE との連携

国際発信力強化の一環として J-STAGE と連携し、新たな取り組みへの参画、公開画面インターフェースの拡充をいたします。

4) 学術研究集会の開催および部会・支部活動の支援

(1) 年会の開催

年会はひとつの学術大会の枠にとどまるのみでなく、日本の科学研究に貢献する重要な事業であり、本会の目的である薬学の進歩・普及ひいては学術文化発展の実現を支援しています。特に薬学を学ぶ学生にとっては学会との最初の接点となる場であり、また、薬剤師職能団体や製薬企業関係者との相互連携およびドイツ、アメリカ、韓国各薬学会などの国際機関との交流促進の場となっております。

(2) 国際創薬シンポジウムの開催

創薬に関わるアカデミア、特に企業の研究者の興味を引くシンポジウムとして第 135 年会（神戸）から第 1 回国際創薬シンポジウムを開催していますが、第 138 年会（金沢）においても引き続き第 4 回国際創薬シンポジウムを開催します。このシンポジウムは、将来的には薬学会年会が世界の創薬研究者の情報交換の場として機能することを目指します。特に、創薬と育薬（臨床現場の薬剤師）の研究者集団として発展してきた日本薬学会の独自性を世界にアピールする場とします。

(3) 部会の活動

部会は、薬学研究の高度化と若手研究者・薬学生など次世代を担う優れた人材の育成を共通の主要課題とし、シンポジウム、フォーラム、研究会ならびに顕彰活動などを通じ、各部会の特長に合わせて特色ある活動を進めてまいります。部会活動の円滑化をはかるため、部会長会議を開催し、連絡調整・情報交換を行います。

(4) 支部の活動

支部は、会員と日本薬学会との接点の場です。地域薬剤師会との交流、最新薬学講習会、卒後研修会、高校への薬学ガイダンスなど地域に密着した積極的な事業展開を行い、特に6年制の学生の支部大会への参加を積極的に奨励し顕彰するなど、学生会員の確保に繋がるよう努力してまいります。支部長会議では、理事会の動向を把握し、ともに連携しながら活性化を推進してまいります。

(5) 創薬セミナーの開催

創薬セミナーは日本薬学会の看板セミナーです。「創薬」を中心テーマとする本セミナーでは、産官学の第一線で活躍する講師の講演を聞き、参加者は忌憚り無い意見を交換します。また、全ての参加者は同じホテルに泊まり、文字通り寝食を共にしながら創薬の夢を熱く語りあいます。本年度もこの基本方針を踏襲します。

本セミナーでは、30年にわたり創薬研究者の育成に取り組んできました。創薬への夢をもつ、多数の若い企業研究者が参加していることから、セミナーの使命は十分に果たされているといえます。

平成30年度のセミナーでは、日本を支える基幹産業としての製薬業界の今後を展望し、創薬研究の新しい展開を追求できる企画を行います。また、全員参加型セミナーとして、講演や自由討論会をより充実させ、進化したセミナーとなるよう計画します。

5) 学術研究・教育活動の奨励・表彰

(1) 研究奨励

日本薬学会では、博士の学位を有する多様な薬剤師あるいは薬学研究者を輩出することを使命として、学位を取得するための研究に専念できる環境を整備するべく長井記念薬学研究奨励支援事業を行ってまいります。平成30年度も同様に募集を行い、支援事業の趣旨に沿って選考を行ってまいります。

(2) 授賞

日本薬学会の学術研究評価および活性化事業として、会員の卓越した業績に対し、下記の賞について受賞候補者の推薦募集を行います。選考手続きを進めるにあたっては、それぞれの賞の趣旨に沿って選考を行ってまいります。

- | | |
|---------|---------------|
| ① 薬学会賞 | 4件以内 |
| ② 学術貢献賞 | 6件以内 (1件/1部門) |
| ③ 学術振興賞 | 6件以内 (1件/1部門) |

④ 奨励賞	8 件以内
⑤ 創薬科学賞	2 件以内
⑥ 教育賞	2 件以内
⑦ 功労賞	1 件以内
⑧ 佐藤記念国内賞	1 件以内

(3) 他機関関係賞などへの推薦

各種財団・機関が募集する関係賞や研究助成などの本会への推薦依頼に対し、本会会員より候補者を積極的に推薦します。さらに、国（省庁）による表彰についても候補者の推薦依頼に応じて推薦します。

6) 薬学教育基盤の整備

日本薬学会にとって「薬学教育」は学会全体として取り組んでいる重要事業です。どの分野に進んでも、今後の科学技術の進歩に対応できる基本的な資質と能力の涵養を図るとともに、国民の期待に応えうる医療人として、生涯にわたって研鑽を続け、社会に貢献していく人材を輩出することも使命としています。日本薬学会は、薬学教育の改善・充実のために、他の薬学関連団体と協力して薬学教育に関する課題の発見・解決に取り組むとともに会員の教育能力の開発および向上を支援する機会を提供してまいりました。

学生、若手教員等を対象としたワークショップの企画・開催、また学会の観点から医療人の資質を確保するための方策を支援します。

また、生涯研鑽支援の見地から、健康サポート薬局に申請する機関の研修プログラムの確認作業を行い、社会貢献を果たします。

さらに、文部科学省委託事業である、海外の薬学教育との比較調査と改訂版モデル・コアカリキュラムの英訳を行うとともに、本内容について金沢年会にてシンポジウムを開催します。

3 学会情報の配信

薬学の学術教育研究、医療における薬学の貢献、さらには薬学分野の行政・産業などの最新の動向を、会員間のみならず広く社会と共有し、健康福祉社会の発展に寄与してまいります。会員に対しては、会員のニーズを的確に把握してその満足度の向上をはかり、非会員の薬学関係者に対しては本会活動の意義を理解することで入会を促し、一般（広範な非会員）に対しては、薬学と医薬品に対する関心と理解を深め、本会活動への賛同・支援の獲得に努めていきます。

(1) 社会への発信

日本薬学会では平成 28 年度から男女共同参画推進の取組みを開始し、平成 29 年度には男女共同参画学協会連絡会にオブザーバー学協会として加盟しました。本会は、新しい未来を創造しながら、生命現象の解明と医薬品の適正使用をめざし、人類の健康と福祉のために着実な発展を続けています。男女共同参画を推進することで、性別年齢を問わず、すべての人が対等な立場で個性と能力を十分に発揮し、自らの希望に沿った形で活躍できる男女共同参画社会の実現に寄与し

ます。本年度は金沢年会にて理事会企画シンポジウムを開催し、大学、製薬企業、医療現場の若手の実際の実践の取組みや課題等について紹介してもらい、将来の方向性について議論するとともに、男女共同参画に対する本会の今後の取組みについて意見交換を行います。

(2) 会誌の発行

薬学は、創薬・生命科学の基礎研究から創薬開発、薬の臨床応用、薬剤師教育まで幅広い領域をカバーし、また日本薬学会は大学等のアカデミアに属する教員、学生から薬剤師、企業人まで広範な会員で構成されています。ファルマシアは会員誌として、会員に広汎な情報を提供するのみならず、学会の広報として内外の情報を分かりやすく、また親しみやすく提供することも目的としています。

また、新規会員の増加につながるよう、創薬に関わる若い研究者、ベンチャーを含む企業、学部学生・大学院生などが興味を持つ読物をさらに充実させて魅力ある雑誌をめざすとともに、広報委員会との連携を図りながら、医療薬学系読者向け分野のテーマの充実を図り、医療系の基礎薬学としての情報発信を図ります。

なお、本学会会員には、購読者番号とパスワードの入力により、本誌発行日に J-STAGE 掲載の WEB 版を閲覧可能としております。また、発行後 1 年経過した掲載分を全文公開することにより、ファルマシアを広く周知出来るよう情報発信に取り組んでまいります。

(3) ホームページの更新

ホームページリニューアル作業を継続し、見やすく、見つけやすいウェブサイトの構築を目指します。これにより学会の学術活動や事業について迅速な広報を行うとともに、会員の活動に資する最新情報の提供を行います。特に、今後の学会活動を支える学生会員の確保に向けて、中高生（非会員）に対して、薬学や医薬品についてわかりやすい情報を提供して薬学の面白さの啓発に努め、魅力的な薬学会を提示するためのコンテンツを提供します。

(4) メールマガジンの配信

メールマガジン「ファームナビ」は年間 8 報を目処として、会員へ日本薬学会の理事会方針を速やかに伝達し、情報の共有化を行います。

(5) 報道機関対応

メディア（報道機関）に対しては、薬学に関連する最新情報の提供と意見交換の場を設けて、報道機関を通して社会へ向けて開かれた窓口の構築に務めます。

(6) 刊行

好評を得ている薬学に関する普及啓発誌 2 種（「これから薬学をはじめるあなたに」「高校生のための薬学への招待」）の改訂年の前年にあたり、改訂の準備に入

ります。1月に発行した冊子版「薬学と私」の配布を促進し、薬学の啓発活動を継続します。マスコットキャラクター（ナガイ博士とドリン君）を活用しながら、社会へ向けてYouTubeの専用チャンネル「日本薬学会公式チャンネル」を活用し、広く薬学会の活動を周知いたします。

4 他機関との交流協力とグローバル化の推進

他機関との交流と協力をはかり、広く社会に貢献します。

(1) 共同主催、共催、後援、協賛

日本学術会議における薬学研究者の活動を支援するため、シンポジウムを共同で主催します。また、本会と密接な関係を持つ団体が主催する関連学術集会（国内、国際）の共催、後援、協賛を行います。

(2) グローバル化の推進

①国際薬学連合（FIP）への対応

FIPに加盟する国内4団体の一つとして日本FIP連絡会議（年2回）に参加・協力をしています。第138年会（金沢）では、Pharmacy Practice Research（PPR）-患者のために「研究」ができること-をテーマにFIPフォーラムを企画し、国内外の大学や薬局でのPPRの分野での研究成果等について紹介します。また、FIP第78回年会（2018.9.2-6、英国、グラスゴー）への派遣・協力も行います。

②代表者および講師の派遣・招聘

・ドイツ薬学会

第138年会（金沢）にドイツ薬学会から代表者2名を招聘し、講演を実施します。また、第36回メディシナルケミストリーシンポジウム（医薬化学部会主催、11月 京都）に同学会代表者（1名）を招聘し講演を実施します。

・アメリカ薬学会

アメリカ薬学会2018年会にて開催の本会との合同シンポジウムに、2名の講演者を派遣する予定です。

・韓国薬学会

韓国薬学会2018年会に本会代表者として、会頭および講演者2名を派遣する予定です。

・DUPHAT(Dubai International Pharmaceuticals and Technologies Conference and Exhibition)からの要請により、本年3月に1名講師を派遣する予定です。

5 学会基盤の整備・確立

1) 会員関連

(1) 会員増強への取り組み

日本薬学会は、社会的要請に応え薬剤師養成の任を果たすとともに、日本のアカデミアおよび創薬研究において、有機化学、生物学、分析・物理化学の観点から大きな貢献を果たしてきました。

特に、研究集会開催などによる学術研究への寄与、国際化や薬学教育改善への取り組み、薬学生への支援事業など活動は多岐に渡っています。

次世代の更なる発展へ向けて、これらを一層充実するためにも、学会活動の基盤となる会員増強を目指し、関係部署と連携を図り、積極的な対策を検討します。

また、機関会員である賛助会員に向けて、さらに魅力ある学会となるよう既存の優遇制度の見直しを諮ります。

加えて、薬学紹介用リーフレットを配付し、薬学会を広く周知するための努力を重ねます。

(2) 名誉会員、有功会員ならびに永年会員の推薦

定款第5条に基づいて、代議員総会において名誉会員を決定し、理事会において有功会員および永年会員を決定します。

2) 長井記念館の維持管理

長井記念館は竣工から25年が経過し、修繕費の増加が見込まれます。修繕計画については、本館の管理代理者である三菱UFJ信託銀行とともに本会が主体的に検討し、会館の改修・諸設備の保守営繕を怠りなく策定・実行します。昨年度から着手した大規模修繕である空調改修工事は平成31年3月に終了する予定ですが、入居テナントへの配慮を怠りなく進めます。

また、本会が所有する固定資産は、長井記念館など一定以上の規模であるため、固定資産管理システムを導入し、減価償却を容易にするなど、事務の正確化、透明化に努めています。

3) 賃貸収入と会館の運営

本会では会館の賃貸事業収益をもって、学会運営の財務基盤を補完していることから、三菱UFJ信託銀行と連携を密にし、常に状況把握を正確に行って運営基盤の安定化に資するよう努力しております。良質なテナントの確保に努めることにより、適正な収入を受取できるよう努めます。また、会館の各施設および設備の向上を積極的に計ることで価値を高めるようにいたします。